

生徒の力が輝く チーム「ニコ鶴」プロジェクト

～仙台市立鶴谷中学校 学校支援地域本部～



鶴谷中学校は、周辺は整備された住宅地で、緑豊かな公園や地域施設が点在し、落ち着いた環境の中で学べます。校名は、古くから沼や池が多く、鶴の渡りの名所だった「鶴ヶ谷」の地名に由来し、校章には三羽の折り鶴が“和”の象徴として描かれています。

【チーム「ニコ鶴」プロジェクトとは？】

鶴谷中学校では、地域の人と人がつながり、お互いに支え合える絆がある地域を目指し、中学生がチーム「ニコ鶴」プロジェクトとして活動を行っています。チーム「ニコ鶴」プロジェクトでは、高校生や地域のボランティアチームもサポーターとして活動を支援しており、たくさんの話し合いを重ねながら共に企画を考えています。令和7年度は、地域のmini マルシェに「わたあめ屋」「缶バッジづくり」「ストリートピアノ」の3つを企画し出店するなど、中学生の取組が地域を盛り上げました。

こどもの声

地域の一員としてできることを

チーム「ニコ鶴」プロジェクトの様子



- みんなで準備をしてきたことが楽しかったです。一人ひとり意見を出して、その意見を尊重し合っていたと思います。
- 鶴ヶ谷地域の現状を知ることができました。年齢を超えた関わりが少ないと感じたので、企画を通して、地域の交流の場を増やしていきたいと思いました。いろいろな人が参加できるイベントを企画することができて良かったです。
- たくさんの人に楽しんでもらえて、喜んでもらえてうれしかったです。
- 地域がどのような問題を抱えているのか具体的に考えることができたおかげで、地域に対する気持ちが大きくなりました。

地域の声

ありがとうがつくる地域の未来



鶴ケ谷市民センター やまき じゅんいち 八巻 淳一さん

チーム「ニコ鶴」プロジェクトは、鶴ケ谷市民センターと鶴谷中学校が協働して、企画・運営をしています。今回、鶴ケ谷市民センターの八巻さんにお話を伺いました。

八巻さんは、「このプロジェクトは、中学生が楽しみながら『地域をどう盛り上げ、どう貢献できるか』を考える活動です。地域の方々にとっては、中学生が笑顔でイベントに参加することで活気が生まれるという大きなメリットがあります。そして中学生は、地域の方々からの感謝の言葉を受けて、大きなやりがいを感じます。私は、中学生がもっと地域を好きになり、やがて地域に貢献できる大人に育ってほしいと願っています。」と話してくれました。

こどもたちの地域を思う気持ちが、地域との絆を育み、地域の活力につながっているようです。

学校の声

生徒主体の関わりを大切に

話し合いの様子



鶴谷中学校の藤田教諭はチーム「ニコ鶴」プロジェクトの活動について次のように話しています。「生徒が自ら地域に発信を行い、人を楽しませる経験ができる場となっています。令和7年度からは教員が生徒と地域の大人の間に入りすぎないようにし、交渉や相談を生徒主体で行ったことで、こどもと地域の大人との距離が自然と近くなっていきました。学年の違う生徒や地域の大人との関わりを通じて、こどもたちは多様な価値観を知り、受け入れられるようになっていきます。そして、話し合いを重ねて企画を形にし、感謝されるという経験は、こどもたちの自己有用感を高めていると考えています。」

こどもたちが地域の一員として、地域と関わりながら活動する経験は、こどもたちを大きく成長させると感じました。

【まとめ】

鶴谷中学校では、こどもたちが地域のためにできることを考え、地域の大人と共に活動を行っていました。こどもたちは一人ひとりの意見を大切にしながら話し合うことで、様々な価値観や考えを学び、成長していきます。また、自分たちで作上げた企画により、地域の方々から感謝された経験は、こどもたちの達成感ややりがいにつながっていました。

チーム「ニコ鶴」プロジェクトの活動は、こどもたちと地域が互いに学び合い、共に歩むことのできる場になっているようです。これからも、こどもたちの地域を思う気持ちが、絆ある地域をつくっていきます。

